

下肢関節疾患患者のリハビリ意欲に関連する要因

The factor in relation to a will for rehabilitation of the patients
who have articular disorder

東3階病棟 武田智佳 荻原明香 鰐川洋子 永田賢子

<要旨>

下肢関節疾患で術後リハビリを開始している患者に対し、アンケート調査を行い、リハビリ意欲に関連する要因は何かを明らかにした。独自で作成した意欲の指標の合計点と、リハビリ意欲に影響を与えられると思われる要因の質問項目との相関関係を、Spearmanの順位相関で求めた。その結果「生きがいがある」「目標がある」「医師からの励ましがある」などの質問項目で相関関係があり、精神的支援の重要性が分かった。

<キーワード>

リハビリ・意欲・下肢関節疾患患者

I. はじめに

下肢関節疾患患者で手術を行った患者は、ほとんどが術後約3日でリハビリを開始する。しかし、病棟内で患者の様子を見ていると、患者によって病棟内で自主的にリハビリを行っている患者もいれば、理学療法士によるリハビリ以外はほとんど臥床している患者も見られ、個人によってばらつきがあると感じられる。そこで今回、患者のリハビリ意欲に関連する要因は何かを知り、今後の看護に役立てたいと考え、本研究に取り組んだ。

II. 研究方法

1. 期間：平成20年10月～12月
2. 対象：下肢関節疾患患者で術後リハビリを開始し、車椅子移乗を行っている患者22名
3. 方法：
 - 1) 調査内容：意欲の指標として、「高齢者総合的機能評価ガイドライン」の中にある Vitality index を参考に独自の質問項目5項目を作成点数化し(表1)、点数が高いほど意欲があるとした。リハビリ意欲に影響を与える要因については先行研究を参考に独自の質問13項目を作成し、回答方法は「まったくそうだ」を4点、「ややそう

だ」を3点、「やや違う」を2点、「まったく違う」を1点の4段階で評価した(表2)。

表1 意欲の指標としての5項目

	全くそうだ	ややそうだ	やや違う	全く違う
1. リハビリが楽しみである	4	3	2	1
2. いつもすっきり目が覚める	4	3	2	1
3. いつも同室者に挨拶をしようと思う	4	3	2	1
4. 食事は楽しみである	4	3	2	1
5. トイレに行くのが面倒だと思う	4	3	2	1

表2 リハビリ意欲に影響を与える要因についての質問項目

1. 良く眠れている
2. ストレスがある
3. 疲れている
4. 痛みがある
5. 今の痛みは納得できる痛みである
6. 痛みのあるうちは動かない方が良いと思う
7. 車椅子で動きづらいつと感じる場所がある
8. 家族の援助があると感じる
9. 看護師の励ましがあると感じる
10. 医師の励ましがあると感じる
11. 理学療法士の励ましがあると感じる
12. 生き甲斐がある
13. 目標がある

「意欲の指標としての5項目」「リハビリ意欲に影響を与える要因についての質問項目」について、術後リハビリを開始して1週間が経過した対象患者に対し、無記名自己記入式アンケート調査を実施した。また、車椅子自立期間と術後1週間前後の検査デー

タ (WBC, CRP, TP, ALB, SPO₂) の調査も行った。

2) 分析方法

独自で作成した意欲の指標(以下 VI とする)の合計点とリハビリ意欲に影響を与える要因の13項目、車椅子自立期間、術後1週間前後の検査データについての相関関係を Spearman の順位相関で求めた。

4. 用語の定義：ここでいうリハビリとは、身体運動の機能回復を目的とした日常生活訓練を言い、車椅子自立とは車椅子の自走ができるようになったこととした。
5. 倫理的配慮：対象患者には研究の趣旨と得られたデータは保護され、本研究以外に使用しないこと、同意の有無により、今後の治療・看護に不利益を生じないことを書面にて説明し同意を得た。

III. 結果

男性8名女性14名平均年齢63歳、手術経験ありが16名、なしが6名であった。VIの合計点とリハビリ意欲に影響を与える要因の13項目の相関関係を見ると、「目標がある」「生きがいがある」「医師からの励ましがあると感じる」「痛みがあるうちは動かない方が良いと思う」の項目に正の相関があり、年齢でも正の相関が見られた。「痛みがある」「疲れている」などの項目には相関関係はなかった。(表3)

表3 VIの合計点とのリハビリ意欲に影響を与える要因との相関関係

	生き甲斐がある	痛みがある うちは動かない 方が良いと 思う	目標がある	医師からの 励ましがある と感じる	Nsからの 励ましがある と感じる	痛みがある	疲れている	年齢
VI	0.572	0.595	0.477	0.51	0.177	0.305	-0.108	0.757
	**	**	*	*				**

n=22 * p<0.05 ** p<0.01

車椅子自立期間と年齢とは正の相関があり、ヘモグロビン値と経皮的酸素飽和度とは負の相関関係があった。(表4)

表4 車椅子自立期間との相関関係

	年齢	Hb	SpO2
車椅子自立期間	0.477	-0.466	-0.606
	*	*	**

n=22 * p<0.05 ** p<0.01

「看護師の励ましがあがる」の項目と「生きがいがある」「目標がある」の2項目には正の相関関係があった。(表5)

表5 「看護師の励ましがあがる」と感じる項目との相関関係

	生き甲斐がある	目標がある
看護師の励ましがあがると感じる	0.538	0.649
	**	**

n=22 * p<0.05 ** p<0.01

IV. 考察

リハビリ意欲には「身体的痛み」「疲労感」などが関連しているのではないかと考えていたが、それらには相関関係はなく、「目標」「生きがい」「励まし」などに正の相関があり、精神的な面がリハビリ意欲に影響を与えていると考えられる。また、年齢が高いほどVIの合計点が高い傾向にあり、「痛みがあるうちは動かない方がよい」に正の相関があることから、高齢になるとリハビリによる回復への期待や身体的不安が大きいのではないかとと思われる。「看護師からの励ましがあがる」とVIの合計点との相関関係はなかったが、この項目と「生きがいがある」「目標がある」の項目には正の相関があり、日々のコミュニケーションの中で看護師の関わりが何らかの影響を与えているのではないかと考えられ、医師や他職種とのチーム医療による、精神的支援の重要性を感じた。また、車椅子自立期間は年齢や、身体的要素に影響される傾向があると思われる。

V. 結論

下肢関節疾患患者のリハビリ意欲には「年齢」「目標」「生きがい」「医師からの励まし」などが関連しており、精神的支援の重要性が示唆された。

VI. おわりに

今回の患者アンケートの目標、生きがいについての自由記載欄を設けたところ、家族についてや、趣味のことについてなど、患者によって様々な内容が記載されていた。藤原¹⁾は、身体を動かさずらくさせている要因を取り除くためには、心が動き、心が開かれていくことが重要であると述べている。病棟内のリハビリにおいて患者の目標や生きがいを理解し、患者が納得してリハビリに臨めるよう支援していくことが大切である。

今後は今回の結果を踏まえ、患者とのコミュニケーションを十分にとり、リハビリ意欲を高められるよう支援していきたい。

VII. 引用文献

- 1) 藤原茂：高齢者の意欲・生きがいを引き出すデイサービスの実践，臨床老年看護，Vol.9 No.4，P～57

VIII. 参考文献

- 1) 秋山麻美他：整形外科患者のリハビリテーションの意欲に影響する要因の検討，Yamanashi Nursing Journal Vol.1 No.2 P17～22. 2003
- 2) 鳥羽研二：高齢者総合的機能評価ガイドライン，102頁，厚生科学研究所，2003
- 3) 丹後みゆき他：リハビリ意欲を引き出すための情報の共有 生活動作チェック表 を活用して，新潟県立がんセンター新潟病院看護部看護研究，P19～25，2006
- 4) 高野節子他：病棟におけるリハビリテーション看護技術，看護技術，Vol. 44 No.10，P18～22，1998
- 5) 木村孝：意欲の低下がある高齢者への“動機付け”の重要性，臨床老年看護，Vol.9 No.4，P49～58
- 6) 金子昌子：リハビリテーション看護の技術，Vol.44 看護技術，P7～9，1998